

小学校第5学年音楽科学習指導案

指導者 海老沢 左知子

- 1 題材名 祭りばやしのふしをつくろう
- 2 題材の目標 祭りばやしに親しみながら，その特徴を感じ取った上で，問いと答えの仕組みを生かして，思いや意図をもって陽音階のまとまりのあるふしをつくる。
- 3 題材設定の意図

(1) 題材観

本題材では，笛と打楽器でにぎやかに囃し立てて祭りを盛り上げる祭りばやしに親しみながら，その特徴を感じ取った上で，問いと答えの仕組みを生かして，思いや意図をもって陽音階のまとまりのあるふしをつくることをねらいとしている。祭りばやしの特徴をつかむために，「神田ばやし」を聴いたり，「祭りばやし」を演奏したり，和太鼓のリズムの基本形（3種類）を演奏したりする。これらのふしやリズムの特徴を知覚・感受したことを基にして，陽音階や問いと答えを手掛かりとして思考・判断する活動を行うことで，思いや意図をもって，まとまりのある祭りばやしのふしをつくる力が育つであろうと考え，本題材を設定した。

(2) 児童の実態

音楽に関するアンケートは，下記の結果になった。（34人）

1	音楽が好き	30人	どちらかというとは好きではない	4人
2	音楽の活動で好きなこと・その理由（複数回答）			
	歌を歌うこと	19人	（気分がすっきりする，みんなと声をあわせるのが楽しい，きれいにハモるとうれしい）	
	リコーダー演奏	18人	（色々な曲が吹ける，そんなに難しくない）	
	合奏	17人	（色々な楽器が入ると楽しい，ひとつの曲をみんなでつくるのが楽しい）	
3	音楽の活動で難しいと感じること			
	楽譜を読むこと	25人	（ドレミがよく分からない，音符の長さがよく分からない，記号が難しい）	

本学級の児童は，明るく活発で，さまざまな表現活動にも積極的に取り組む児童が多い。音楽を好む児童も多く，放課後の金管バンド部には，約半数の児童が所属している。歌ったり，演奏したりすることが大好きな児童である。しかし，音楽づくりの活動を好む児童はいなかった。また，音符，休符，記号や音楽にかかわる用語についての理解が十分でなく，楽譜を読むのは難しいと感じている児童は7割を超えている。

(3) 指導観

指導に当たっては，まず，楽譜を読むことに抵抗を感じている児童が多いので，毎時間の導入で，リズムや階名・音符や記号などを扱ったゲームを取り入れ，楽しみながらこれらを知識として身に付けられるようにする。また，県音楽教育研究部の主題である「共に親しみ共に楽しみながら 心をつなぐ音楽を求めて」を受け，進んで音楽の楽しさを味わい，生涯にわたって音楽と触れ合えるように，音符，休符，記号や音楽にかかわる用語を音楽づくりの活動を通して理解することで，思いや意図をもって表現する力を育てていきたい。

本題材では，祭りばやしに親しみながら，その特徴を感じ取った上で，問いと答えの仕組みを生かして，思いや意図をもって陽音階のまとまりのあるふしをつくることをねらいとしている。そこで，日本の代表的な祭りばやしを聴き，雰囲気や特徴を感じ取れるようにしたい。主となる活動では，「レミソラド」の5音を用いて，笛のふしをつくる。グループは4～5人で構成し，2人で2小節ずつ，相談しながら合わせて4小節のふしをつくる。つくったふしは，グループ内で共有できるよう，ワークシートに記譜する。その際，五線譜ではなく，リズム譜と階名を一体化させた音符カードを用いたふし記譜用ワークシートを用意し，

児童の思いや意図を記譜しやすくする。これらの活動を通して、本題材の目標に迫りたい。

4 教材について

鑑賞曲「神田ばやし」

東京都

器楽曲「祭りばやし」

川崎 祥悦 作曲

5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
歌唱			
器楽			
音楽づくり			
鑑賞			
題材 評価の 規準	問いと答えの仕組みを生かして音を陽音階で構成することに関心を持ち、思いや意図をもって笛のふしをつくる学習に進んで取り組もうとしている。	祭りばやしの特徴を聴き取り、笛のふしのよさや面白さを感じ取りながら、問いと答えの仕組みを生かしてイメージに合う音を陽音階で構成するために、思いや意図をもって工夫している。	祭りばやしに親しみながら、その特徴を感じ取った上で、問いと答えの仕組みを生かして陽音階のまとまりのあるふしをつくっている。
学習 具活 体動 のに 評お 価け 規 準	日本の祭りばやしに関心を持ち、笛のふしや和太鼓のリズムの基本形(3種類)を聴いたり演奏したりすることに意欲的である。 グループ活動において、問いと答えの仕組みを生かして「なおはやし」のイメージを伝え合いながら、音を陽音階で構成することに関心を持ち、思いや意図をもって笛のふしをつくる学習に進んで取り組もうとしている。	グループ活動において、祭りばやしの特徴を聴き取り、笛のふしのよさや面白さを感じ取りながら、問いと答えの仕組みを生かしてイメージに合う音を陽音階で構成するために、ふし記入用ワークシートを用いて思いや意図をもって工夫している。	笛のふしや和太鼓のリズムの基本形(3種類)を知識・技能の基にして、祭りばやしに親しみながら、その特徴を感じ取った上で、グループ活動において、問いと答えの仕組みを生かして陽音階のまとまりのあるふしをつくっている。

6 学習活動と評価の計画(5時間扱い)

教 教材 鑑 鑑賞教材

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	具体的評価規準
第1次 (2)	日本の祭りばやしに親しみ、その特徴を感じ取って聴いたり、演奏したりする。	鑑 教 「神田ばやし」 「祭りばやし」 ・祭りばやしの特徴を感じ取って聴く。 ・笛のふしと和太鼓のリズムの基本形(3種類)を演奏したり、それらを合わせて合奏したりする。	ア 音色 リズム 旋律 問いと答え 反復	アー
第2次 (3) 本時は 第2時	祭りばやしに親しみながら、その特徴を感じ取った上で、問いと答えの仕組み	・イメージする祭りばやしに「なおはやし」といったタイトルをつける。 ・和太鼓のリズムの基本形(3種類)を基に、組み合わせを工夫して、「なおはやし」に合うリズムをつくる。 ・陽音階の5音を使って、ふし記入用ワ	ア 旋律 リズム 音階 強弱	アー イー ウー

	を生かして、 思いや意図を もって陽音階 のまとまりの あるふしをつ くる。	ークシートを用いて、笛のふしをつく る。 ・つくったふしを問いと答えとし、反復 させながら、イメージに合うようにま とまりのあるふしをつくる。 ・和太鼓のリズムに合わせて、祭りばや しを発表し、聴き合う。	問いと答 え 反復	
--	---	--	-----------------	--

7 本時の学習（第3次，第2時）

(1) ねらい

祭りばやしに親しみながら，その特徴を感じ取った上で，問いと答えの仕組みを生かして，
 思いや意図をもって陽音階のまとまりのあるふしをつくる。

(2) 準備・資料

フラッシュカード（リズム用・階名用），ハーモニーディレクター（スピーカー），
 ふし記入用ワークシート（1グループ2種類），音符カード，イメージカード
 締太鼓・パチ（9セット），学習カード

(3) 学習の展開

学習内容と主な学習課題	教師の働きかけ（ 学習活動における具体の評価規準）
<p>1 音楽学習への意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュカード （リズム） （階名） ・和太鼓のリズムあそび <p>2 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>祭りばやしのふしをつくらう。</p> </div> <p>ふしのつくりかたを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の陽音階（5音） <ul style="list-style-type: none"> ・問いと答え ・リコーダーの吹きやすい音域 ・はじまりの音（ラ，レ，ミ） ・終わりの音（ラ） 	<p>リズムにのって，フラッシュカードを用い，楽しく基本的なリズムや階名を覚えられるようにしたい。</p> <p>和太鼓を用いて，リズムの基本形（3種類）を打ちながらリズムあそびをすることで，本時の活動への意欲を高める。</p> <p>前時にグループごとに話し合った，祭りばやしのイメージを「 なおはやし」として，黒板に掲示しておき，本時の思いや意図をもって笛のふしをつくるためのねらいを明確にする。</p> <p>陽音階「レミソラド」の5音を使うと，笛と打楽器でにぎやかに囃し立てて祭りを盛り上げる祭りばやしの特徴を表すことができることを確認する。</p> <p>基本となる「レミソラド」の音には，分かりやすく色づけし，掲示する。</p> <p>2種類の笛のふしを問いと答えとし，反復しながら，まとまりのある祭りばやしのふしのつくりかたを，教師が演奏しながら紹介する。</p> <p>今までのふしづくりの経験を生かしながら，リズムと音を選び，つくるように助言する。（例 「始まりの音をラ・レ・ミのどれか，終わりの音をラにすると落ち着く感じになる」など）</p> <p>グループは4人（5人）で構成し，2人で2小節ずつ，相談しながら合わせて4小節つくるようにする。</p>

<p>4 おはやしのふしをつくる。</p>	<p>グループでつくるおはやしの季節や場面をボードに記入し、イメージを明確にしてふしづくりに生かせるようにする。 つくったふしは、ふし記入用ワークシートに記譜し、グループ内で共有できるようにする。 必要に応じて、音符カードを並べ替えながら、拍に合うリズムを考えられるようにする。 グループの実態に応じて、ふしをつくる援助、合わせるための演奏の援助、さらにおはやしらしくするための飾りの音の工夫や演奏の仕方の工夫の助言をする。 必要に応じて、意図的にグループ同士での聴き合いや全体での中間鑑賞会を行い、追究方法のよさを共有する。 できたグループは、前時でつくった太鼓のリズムと合わせて演奏できるようにする。 発表の際に合わせてやすくするために、2小節の前奏を入れるようにする。 笛のふしや和太鼓のリズムの基本形（3種類）を知識・技能の基にして、祭りばやしに親しみながら、その特徴を感じ取った上で、グループ活動において、問いと答えの仕組みを生かして陽音階のまとまりのあるふしをつくっている。ウー</p>
<p>6 できたグループの作品を聴く。</p>	<p>できたグループは、全体で発表し、互いに聴き合って、よかったと思うところについて意見を出し合うようにする。</p>
<p>7 本時のまとめをし、次時の学習について知る。</p>	<p>つくったおはやしに、さらに工夫を加え、楽しいふしができるよう次時への意欲を高める。</p>

8 観点別評価の生かし方

【表現の技能】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断するキーワード
<p>ウー 笛のふしや和太鼓のリズムの基本形（3種類）を知識・技能の基にして、祭りばやしに親しみながら、その特徴を感じ取った上で、グループ活動において、問いと答えの仕組みを生かして陽音階のまとまりのあるふしをつくっている。</p>	<p>【評価方法】 ・ふし記入用ワークシートの記載内容及びグループ活動中の様子や子どもたちとの会話から見取る。 【Cと判断される状況への働きかけ】 ・陽音階の5音を階名（カタカナ）で分かりやすく提示する。 ・簡単なリズムを提示し、そこへ5音を当てはめるようにする。 ・ふし記入用ワークシートへの記譜が難しい場合には、児童がリーダーでつくったふしを教師側で聴き取り、記譜する。 【Aと判断するキーワード】 問いと答えのあるまとまりのあるふしづくり ふしづくりでの積極的な活動・発言 できあがった作品を聴きながらの発言</p>